



「結束の里山を次世代へ」 保全活動スタート

〈石神 良三〉

〈活動後の林床〉

見通しもよく、手入れをする前の暗い森より、いい森になりました。
間伐をする事によって出来た隙間に、新しい植物が芽を出します。

- 事務局主催による全体行事、「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」の第一回活動が去る六月十七日(日)に実施されました。活動の概略は次の通り。
- ・日時 六月十七日(日) 午後一時～四時
 - ・参加会員数 二十一名(後日活動された5名を含む。)
 - ・活動場所 第一駐車場東側スギ、ヒノキ林
 - ・活動内容 倒木の整理と間伐
- 間伐が進むにつれて、木もれ日が林床にさし込み、心地よい明るさを感じながら和気あいあいの活動が展開されました。
- 休憩時に、行事の計画をご快諾くださった地権者の石山さんが見えになり、植林当時の苦労話をお聞きすることができました。
- 参加された会員の方々には、ご多用のところを本当にご苦労さまでした。これからの活動に夢を抱かせるスタートとなりました。
- 結束町みどりの保全区も観察の森と一続きの大切な森です。地権者の方、結束町の皆様との協力、絆を深め、結束の里山を次世代へ残していくために、これからも保全活動を続けていきますので、ぜひ皆様の「結束町みどりの保全区エコアップ作戦」にご参加ください。

現地ガイド 三浦 昭十七

去る六月二〜三日一泊二日で今後のより充実した活動、メンバーの親睦と健康の向上を目的として富士山麓へエコツアーを実施し、無事大成功に終わりました。

私はガイド役として参加しましたが、幹事役の研修グループの方々と参加者の方々のチームワークとご協力のおかげで、本当に楽しく有意義なエコツアーになりました。

見学場所

巨木リサーチ事業 ～富士エコツアー実施報告～

- 1、富士山五合目から御中道・御庭・奥庭
- 2、北口浅間神社の太郎杉・二郎杉・夫婦檜
- 3、西湖コウモリ穴
- 4、精進の大杉・諏訪神社の大杉
- 5、紅葉台（青木ヶ原樹海の展望）
- 6、青木ヶ原樹海とミズナラの巨木
- 7、溶岩樹形

所を選び私の感想等を述べてみます。

1、富士山五合目・御中道・奥庭

牛久を出発して富士山五合目への入口富士スバルライン料金所に参加者全員、車4台が無事に揃うまでには何回ものアクシデ

ントがありました。事前に決めておいた高速道路での休憩場所を通り越してしまいうちに、電話連絡で河口湖ICで待つように言っても大月JCTで甲府方面に向かい笹子トンネルをくぐり勝沼まで行ってワインを買ってくる車。その他色々楽しい話題を提供してくれました。

標高2,300Mの五合目に着くと下界の初夏の季節から一気に三ヶ月逆戻りして早春の季節になります。カラマツは芽吹きが始まったばかり、ダケカンバはやつと冬芽がふくらみ初めたところでした。

五合目を起点に御中道から奥庭までの散策路は森林限界付近を3ヶ所の残雪を乗り越えて歩きます。樹木の垂直分布や、火山荒原から森林への発達段階等植物の遷移を



撮影者：戸塚 撮影日：07.6.2

見ることが出来ます。又気象条件の厳しさ特に冬の風雪がいかに厳しいものがあるかカラマツやダケカンバの姿を参加者の皆様も自分の目で見て確認できたのではないのでしょうか。

2・青木ヶ原樹海とミズナラの巨木

ミズナラの巨木までの道は青木ヶ原樹海の中でも最も噴火らしい樹海となつています。千百年前の噴火で流れ出た溶岩の上に出来た3,000平方キロにも及ぶ常緑針葉樹林で、主な高木はモミ属やトウヒ属の仲間・ヒノキ・ツガ・ヒメコマツ等です。土壌はほとんど無く苔むした溶岩の上を木の根がへびのように這いまわっています。今後どのような遷移が見られるのか世界にも類を見ない学術的にも貴重な森という事が出来ると思います。それなのに自殺の名所となつてしまった事は非常に残念な事ですが、今回の参加者の皆様には青木ヶ原樹海の素晴らしさのほんの一端でも分かって頂けたのではないのでしょうか？



撮影者：戸塚 撮影日：07.6.3

青木ヶ原溶岩流の上流部に青木ヶ原溶岩流よりも千五百年〜二千年前の噴火で出来た寄生火山の大室山があります。その麓にミズナラの巨木はありました。私が始めてこの巨木に



＜精進の大杉＞

撮影者：増田 撮影日：07.6.3

ケ原溶岩流が精進湖（この当時はセノ海と言う大きな湖だった）の対岸を埋めながらこちら側に迫ってくるのを目撃していた事になります。逃げ出す事の出来ないこの杉は立

出会った時ミズナラであると納得出来るまでにはかなりの時間が必要でした。ミズナラの樹皮は薄く剥がれそうになっており慣れているのですぐに分かると思っていま

3. 精進の大杉

精進湖畔の諏訪神社に高さ45mを越えて聳える国の天然記念物指定「精進の大杉」。

近づいて根元からゆっくりと頭上を覆う枝を見上げると畏敬の念を禁じえません。樹齢千二百年と言うと千百年前の噴火で青木

ち込める水蒸気に蔽われながら溶岩がここまで来るのではないかとさぞかし心配した事と思います。もしここまで溶岩が来ていたら我々は今巨大な溶岩樹形を見ている事になったかも知れません。

「牛久市民の木」の現在樹齢300年の杉が西暦二千九百七年には樹齢千二百年となり巨木リサーチのメンバーと牛久市民が見上げています。そばに立つ解説板には次のように記されています。

【天然記念物 牛久の大杉】

【この大杉は、今から八百九十年前牛久市に『巨木・古木・希少木リサーチ事業』が発足し市民に自然の大切さ・巨木の尊さを訴え市民と共に大切に守ってきました】

樹高-----40メートル
目通り-----10メートル
樹齢-----1200年

2907年6月3日



調査データ：高さ28m、目通り幹周3.9m、推定樹齢350年

撮影者：戸塚 撮影日：06.10.16

結束町鹿島神社のスギ「市民の木No.38」

今月の古木・希少木

No.4

ミモリ

マツ科の常緑針葉樹。40mに及ぶ高木。日本特産種で、東北、屋久島に分布。筑波山の神社周辺やケーブルカー線路沿いに大木。牛久では古い神社や寺院の境内に古木があります。最近伐採された薬師寺のモミの古木は管理人によれば180の年輪を数えたそうです。

材は色が淡黄白色で美しく上品で、しかも脆く燃え易く、腐り易い特性があるため、葬具、棺、塔婆などに使われてきました。この意味でモミは日本人の終焉の具の役割を果たしてきたといえます。名前の語源は不明です。縦の字を漢字にあてていますが間違いで、中国では冷杉（リンシャン）と書きます。クリスマスツリーは欧州産モミですが、日本ではドイツトウヒが使われているそうです。（渡辺泰）



＜モミ＞



プロジェクト活動報告

里山の会には、個性豊かなプロジェクトがたくさんあります。先月はどんなことがあったでしょうか？それでは紹介しましょう！



雑木林応援隊活動報告

雨宮 廣之

「タマムシの誕生」

雑木林応援隊の活動は、第二日曜日はムジナの里で、第四日曜日は観察の森 梅林奥の炭屋周辺で活動しています。

六月二十四日の日曜日は炭屋に集合して、梅林の下草刈り、森入口周辺の伐採、物置小屋拡張のための切り出し・・・と数班に分かれての活動でした。

前回紹介した昼食も終わり、炭屋周辺の切り株を囲んで談笑していた時に、それは現れました。囲んでいた切り株から、なにやら虫が這いだしてきたのです。昆虫に詳しい方がいてすぐにタマムシと判明しました。モゾモゾと頭を動かし、前足二本が出てきました。ああだこうだ・・・と言いつついる内にネイチャーセンターからもレンジャーの面々が集まり、園長によると非常に珍しい光景で、「タマムシを見つけるとも珍しいが切り株から出てくる所を見られるとは・・・」と興奮がみです。

切り株の回りは、時ならぬ撮影会となり、タマムシはその光景に驚いたのか一向に出

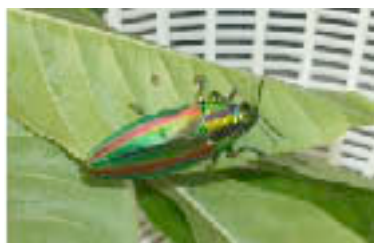
られない様子です。レンジャーに調べて貰うと、切り株から出るには通常三時間程かかるとの事。

それではと、雨も降ってきたので藁で屋根をかけ、皆、帰宅したのですが、結局そのタマムシは切り株から出ることが出来ませんでした。タマムシが成虫になるには三年かかるそうで、切り株から出る穴のサイズを間違えたのか、予想以上に太ってしまったのか、残念な話です。

実は、この話には後日談があります。炭屋にあった切り株は、市内の人より頂いた切り株なのですが、同じ木の切り株が、隊員宅にもあり、「ひよつとしたら・・・」と帰ってから切り株を確認してみると、何と合計四匹のタマムシが成虫となって出てきたそうです。そのタマムシは立派に育ち、森に放たれました。

この話から感じたのは、「自分は、自分で思っている以上に、太っているかも・・・。三年もかけて大きくなったのに、そのために出られないとは・・・」でした。

では、タマムシの写真を
お見せしましょう。



雑木林畑隊活動報告

小野寺 拓郎

ウマとヒト

「遠野の木だし馬」という二十分位のドキュメントのTVがありました。木だしとは森林で伐採した丸太を山裾まで搬送するの意味で、それにあたるウマが「木だし馬」となるわけです。

搬送となればトラック、とおもわれますが、傾斜地で、立木、丸太が散在する場所ではウマの方が小回りがきくようです。小



回りもウマが自分で作業手順を理解して進められるわけではないので、ヒトが介在することになります。そこで、ヒトとウマの微妙な関係が生じます。体力や性格の違いをどのようにあわせるか、に始まって危険予知能力にしても、常にヒトがウマより上位であるとは限らなかつたりして、興味の尽きない番組でした。

1940年代の山村では、トラックはもちろん、ウマも払底していました。そこで登場するのがウマ代理のヒトであります。その当時は、十二〜三才ともなれば大人並みの仕事が割り当てられました。とはいっ

でも、小学生高等学年の体力で、100キロ以上で3mもある丸太を、雪の山道で運び出すのは、容易ではありません。ヒトが丸太の後ろになる場では、丸太の重みを制御することに集中すればよいのですが、反対に、丸太の先でロープをひくとすると、はずみで加速度のついた丸太に、自分が押しつぶされる可能性が高く、作業の間中、身も心も凍ったことでした。

凍るでおもい出すのは、北海道で開拓民となった友人の話です。一日の作業が終わったが、疲れのあまり飼い馬の背で眠ってしまった、気付いたら自分の家の前に居た、というのです。帰り道といっても、数メートルもある積雪で、全く道も見えないのに、どうやってウマく帰れたのかナ、と彼はわらっていました。



里山自然隊活動報告

高野 美栄子

湿地調査の下見

七月は湿地の調査という事で小野川上流域の下見を行なった。田んぼの枯渇もあり中々調査の対象になる水田が無い。除草剤が普及し農家にとっては雑草にしか見えな植物のその中で貴重な植物があるのです。ところが次の代に続かないと田んぼは荒れたちまちセイタカアワダチソウなどが入り込み、貴重な植物は姿を消してしまいます。安定している水田を求めて今回は九月の花の出る準備の段階で下見ということになった。ただ田んぼを歩いて植物を見て

廻るのではなく定点観察の場所を探す、一度田んぼの雑草にとり付かれるともう病みつきになります。小さくて目立たず、しかもちゃんと自己主張する、やがて消えていきそうな愛惜の気持、一見みどりの苗が広がり風になびきとても気持ちのよいものだけれど、猪子と東大和田はおおいに違うのである。隣りとも違う。同じ場所で継続観察のできるところを探す或いは見つけ出す作業、日頃の観察力を問われたような活動日でした。

次回の活動 八月十一日(湿地) 湿地の定点観察を通して水辺環境を見つめます。
牛久市役所 八時三十分〜15時小雨決行
持物 雨靴、ルーペ、凶鑑、弁当、水等
029187316562 高野



じゃがいもプロジェクト活動報告

本多 昭子

活動日 六月九日 参加人数：十六名
作業内容 二回目の土寄せ&除草
里芋の芽の保護対策

三月の植え付け以来の親子組と前年のおそば体験の親子組の参加もあって、久しぶりの顔合わせでした。こども同士のゴッコ遊びも有ったりで、自然観察の森の畑でこそ過ごせる和やかな時間となりました。一般参加者の方に感想を寄せていただきました。

「娘と畑仕事」 小野 陽子・修
三月から三歳の娘とジャガイモ作りに参加



＜じゃがいも畑の活動風景＞

しています。六月九日は畑の草刈りでした。鎌を持ち、せつせと草を刈る横で、娘もせつせとどろんこ遊び。「ママ、お団子で来たよ」「ママ、水くんできて」「ママ、おててがまつ黒」「ママ、チヨウチヨウ」と楽しそう。時々スタッフの方が声をかけてくれたり、自然の中でこんな時間はなかなか味わえないですよ。情けない事に草刈りはきつかったです。でもお昼を楽しみに少しばかりの仕事をしました。この日は具だくさんの団子汁でした。小麦粉にひき肉と玉葱が入った団子はとても美味でした。もちろん私も娘もおかわりしてペロリッと頂きました。

娘はとても人見知りで、知らないヒトの顔を見るだけで、泣きだすこともしばしば。参加する前はそれを心配していたのですが、ここでは泣く事はありませんでした。なかしらは？不思議です。家に帰って来てもむすめは、「じゃがいも楽し〜い。」とニコニコ笑顔でした。次の収穫祭も楽しみにしています。スタッフの皆さん、貴重な体験をありがとうございました。



アヤメ事業活動報告

佐藤 輝雄

「アヤメ園」の花ショウブも六月初旬から咲き始め、六月末には最盛期を過ぎました。今年は、約一ヶ月間見事に開花して「アヤメ園」を訪れる人の目を楽しませてくれたようです。里山の会が管理を委託されてから三年目に見事に復活しました。

振り返りますと、昨年の暮れから、坂チーフが作成してくれた「アヤメ園年間管理表」にしたがって、常に十二〜三名のメンバーがこつこつと作業を続けてきました。

十一月に花ショウブの枯葉刈り・草取り。二月には豚糞や芽だし肥としての化成肥料の施し、また草取りと畝つくり。三月ころから草の伸びも活発になり、毎回雑草と私たちの追いかけてつことなり、取ってもとっても最初に取った所は元以上に伸びた雑草でいっぱいです。

今年さらに隣接する田んぼ（1000㎡）が「アヤメ園」として生まれることになりました。昨年まで稲作をしていたため、田の土が軟らかく長靴が埋まってしまふなど悪戦苦闘しながら、排水溝や隣接の田んぼから水が流れ込まないよう（除草剤などの進入を防ぐ）畔の補修を行い、五月中旬には花ショウブの苗を400株ほど購入して植え込みを行いました。早速翌日には心無い人に数株持ち去られることもありまし

た。なんとなく配管の補修の担当、池の補修

やスイレンの間引きの担当、草取りの担当とメンバーでの得意な分野（？）での担当割が出来たようです。

このような苦労を重ねてきた結果、今年の色とりどり花が見事に咲きました。六月中旬ごろが一番見ごろだったようです。今年もバスツアーの観光客が訪れてくれました。小中学校の野外学習や幼稚園の親子教室、また介護施設の方々が車椅子で大勢こられ心身ともにリフレッシュしておりました。土日には家族連れが「めだか」と追いかけてつこしているほほえましい姿もありました。

終わった花の摘み取りや草取りをしていると、来園された方から私たちメンバーに・今年はいよいよきれいだね・アヤメ園が見事によみがえったね・水郷からの帰りが道だが水郷より花がきれいだよ。と語られると日ごろの苦労を忘れさせる本当にうれしい言葉になります。



今年も花はおしまいになります。さらに広くなる「アヤメ園」を今年以上に素晴らしくして、一人でも多くの人たちに楽しんでもらうよう、メ

ンバー全員が今から張り切って手入れに取り組んでいます。「もうすぐ株分けの作業だ！がんばろう！」



牛久自然観察の森

コーディネーター 渡辺 浩美

牛久自然観察の森のネイチャーセンター内に、いよいよ「AED」が設置されました。最近「エーイーデー」という言葉を、よく耳にされる事があると思います。



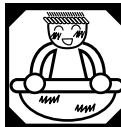
AEDとは、「自動体外除細動器」の略で、電気ショックが必要な心臓の状態を自動で判断し、心臓に電気ショックを与えることで正常な状態に戻す機械です。では、なぜ電気ショック

クが必要なのでしょう？実は、突然死の原因のほとんどは心臓疾患で、その大部分は心室細動という不整脈です。その心室細動に対して、電気ショックが最も有効な治療とされています。そのため、心室細動がおこってしまった時に、AEDが必要となります。（AEDが必要ない時は、機械が教えてくれます。そして、必要でない時は、電気ショックを与えることができないよう

になっています。)

とはいえ、いざというとき使えるか心配になる方も多いと思います。そこで、牛久消防署より講師をお呼びして、「普通救命講習会」を予定しています。受講後は、修了証が配布されます。ぜひご参加ください。普通救命法講習会開催

日時：九月十二日(水) 十三時～十六時
会場：牛久自然観察の森 レクチャー室
定員：十名(事前予約制)八月十二日(日) 午前九時より電話にて受付)



そばプロジェクトからの
お知らせ
横山 さん

五年目に入った今年も、そばの種まきからそばうちまでを行います。その分、自分たちで作った粉で打つそばは、香りも高く歯ごたえもよく、どこのお店でも味わえる物ではありません。参加する子どもたちにも楽しい体験の場になっています。教えている会員もニコニコ顔です。

日時①種まき 八月二十五日(土) 雨天時
②そば刈り 十月十三日(土) 翌週
③実落とし 十月二十日(土)
④唐箕かけ 十一月十日(土)
⑤そば打ち 十二月一日(土)
各回九時三十分～十二時三十分
場所 ①③森の駐車場奥の畑
④⑤観察舎前

参加費 そば打ちの時 700円(予定)
申し込み 横山 874-1430 (午後7時～9時)

「刈払機の耐用年数について」

NPO担当 渡辺 浩美

草刈りの季節です。

先日、刈払機の耐用年数について、安全衛生教育講習会の講師・二方さん(林材労災防止協会茨城支部)に、問い合わせしたところ、「専門の業者は、早ければ三年しか持たない。使用頻度にもよるが、通常は五年程度」とのことでした。観察の森でも、刈払機はもとより、ヘルメットなど法律で使用期限がされている器材を点検しているところですよ。プロジェクトで使用する器材等、ぜひ一度点検してみてください。

広報委員会よりお知らせ

■各プロジェクトの会報原稿をお書きになる方へお願いします。

次号より、原稿入校の文字数を変更させていただきます。ご協力お願いいたします。変更後

原稿は、1段、2段または1ページ(3段)を1つの記事とします。文字数は以下の通りです。

1段の場合：文字のみ530字以内
文字＋写真(一枚) 450字以内

2段の場合：文字＋写真(一枚)

980字以内

1ページ(3段)：文字＋写真(二枚) 1430文字以内

※文字数が少なくなると写真を大きく乗せる事ができません。

運営委員会の皆様には詳細を記載したメールをお送りいたします。また、同様の内容の物を観察の森の各プロジェクト宛引き出しに入れておきますので、お読みいただける様よろしくお願いたします。

分らない事があれば、編集長安村または、若林までご連絡ください。

■次号九月号の印刷発行は八月二十九日(水)午後一時からネイチャーセンターで行います。お手伝いいただける方は一時までにお越しください。よろしくお願いたします。

特別事業「巨木・古木リサーチ」からのお知らせ

巨木リサーチでは、樹木に対する市民の理解を深める活動の一環として、牛久市発行の「公報うしく」に、仮称「街の木」シリーズを、9月1日号から掲載します。(毎月1日号)

内容は主に、街路と樹木の写真・解説記事から構成されており、メンバーが作成した資料を、市に提供します。

又、これとは別に、市内の街路樹に解説付きプレートを取り付けるための事前調査を、市と協働で、8月から9月末の2ヶ月間の予定で行います。すでに、各担当チームを編成して活動に入っています。調査中のメンバーを街で見かけたら、気軽に声をかけて下さいね。

増田勝彦(巨木街路樹グループ)

8月の里山カレンダー

※活動日は都合により変更になる場合がありますので、最新情報はホームページでご確認ください。

日	月	火	水	木	金	土
			1 ○雑木林畑隊 9:30畑	2 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	3 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	4 ○牛久沼観察会 8:00アヤメ園P
5 ○巨木古木リサーチ(受) 8:30市役所玄関 調査	6 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	7	8 ○雑木林畑隊 9:30畑	9 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	10 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	11 ○里山自然観察隊 8:30市役所 (会報等原稿〆切)
12 ○雑木林応援隊 9:00ムジナ	13 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	14	15	16 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	17	18
19 ○運営委員会9:00NC ○広報11:00NC ○理事会11:00NC	20 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	21	22 ○雑木林畑隊 9:30畑	23 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	24 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	25 ○巨木古木リサーチ(受) 8:30市役所玄関 研修見学 ○そばP 9:30梅林畑
26 ○雑木林応援隊 9:00炭小屋	27 (休園日) ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	28	29 ○雑木林畑隊 9:30畑 ○会報発送 13:00NC	30 ○アヤメ園(受) 8:00アヤメ園P	31 ○雑木林畑隊 9:30観察舎畑	

森：観察の森， NC：観察の森ネイチャーセンター， P：駐車場， 畑：観察の森駐車場奥の畑，

コジュケイ：観察の森内コジュケイの林， 観察舎畑：観察の森内観察舎前の畑， ムジナ：結束町の雑木林（通称ムジナの里），

市：牛久市役所， アヤメ園：三日月橋観光アヤメ園， (受)：受託事業， (休園日)：観察の森休園日

編集後記

「自然と人の調和」の大切な要素の一つに、住環境があるかなと思います。どんな土地に家を建てるかによって、私たちの生活もかなり変わってくるでしょう。一般には、北に丘があつて（北風を防ぐ）、南に平地がある（日当たりがよい）土地に住むのがいいみたいですね。さらに西に大きな道（交通の便がよい）、東にやや離れて川があると、とてもいい土地だということですが、反対に避けたほうがよいのは、窪地になつていて湿気が溜まる所や、小山の頂上付近で風に吹きさらしになつていような土地です。

また、「黄金比率の長方形」というものがありまして、人間の心が最も落ち着くのが、1対1・618の長方形だそうです。この比率を元にして土地や家屋の形を決めると、なかなかいい感じかも知れません。…と言つても私は、家を建てるほどお金持っていないませんが（笑）。

これから家を建てようという方で、興味のある方は参考にされてください。

住環境は。家族の和や健康にも影響があります。できるだけいい環境に暮らし、健康な心身を持つて、お互い長生きしていきたいものですね。

(記 安村和真)

会報さとやま 2007年8月号(発行・NPO法人うしく里山の会)

事務局 300-1212茨城県牛久市結束町489-1 (牛久自然観察の森内) 電話029-874-6600